

医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。

## 「使用上の注意」改訂のお知らせ

2024年10月

製造販売元 シオノケミカル株式会社

疼痛治療剤(局所注射用)  
サリチル酸ナトリウム・ジブカイン配合剤

ジカベリン<sup>®</sup>注2mL  
ジカベリン<sup>®</sup>注5mL

謹啓 時下益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、標記製品に関しまして「使用上の注意」を改訂致しましたのでご案内申し上げます。

今後のご使用に際しましては、下記内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

謹白

記

### 1. 改訂内容[改訂箇所: \_\_\_\_\_部、削除箇所: \_\_\_\_\_部]

改訂後	改訂前
<p>9. 特定の背景を有する患者に関する注意</p> <p>9.1 省略</p> <p>9.5 妊婦</p> <p>〈硬膜外ブロック、浸潤・伝達ブロック(トリガーポイント注射等)〉</p> <p>9.5.1 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。投与する際には、必要最小限にとどめ、羊水量、胎児の動脈管収縮を疑う所見を妊娠週数や投与日数を考慮して適宜確認するなど慎重に投与すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤(経口剤、坐剤)を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。<u>シクロオキシゲナーゼ阻害剤を妊娠中期以降の妊婦に使用し、胎児の動脈管収縮が起きたとの報告があり、また妊娠後期はその発現リスクがより高くなる</u>ことが知られている。アスピリン等のサリチル酸製剤には、動物実験で催奇形作用が報告されているものがある。妊娠末期のラットに投与した実験で、胎児動脈管の軽度収縮が報告されている。</p> <p>〈硬膜外ブロック〉</p> <p>9.5.2 省略</p>	<p>9. 特定の背景を有する患者に関する注意</p> <p>9.1 省略</p> <p>9.5 妊婦</p> <p>〈硬膜外ブロック、浸潤・伝達ブロック(トリガーポイント注射等)〉</p> <p>9.5.1 妊娠又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。投与する際には、必要最小限にとどめ、<u>適宜</u>羊水量を確認するなど慎重に投与すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤(経口剤、坐剤)を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。アスピリン等のサリチル酸製剤には、動物実験で催奇形作用が報告されているものがある。妊娠末期のラットに投与した実験で、胎児動脈管の軽度収縮が報告されている。</p> <p>〈硬膜外ブロック〉</p> <p>9.5.2 省略</p>

### 2. 改訂理由:

厚生労働省医薬局医薬安全対策課長通知(2024年10月8日付)に基づき、「9.5 妊婦」の項を改訂致しました。

### 3. 本情報はDSU(医薬品安全対策情報)No.330(2024年10月公開予定)に掲載されます。

### 4. 最新の電子化された添付文書情報は医薬品医療機器総合機構ホームページの「医薬品に関する情報」(URL:<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)においてもご確認いただけます。

また、添付文書閲覧アプリ「添文ナビ<sup>®</sup>」をご利用の際は、以下のGS1バーコードを読み取ることで最新の添付文書情報をご確認いただけます。



以上

— 医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。—

## 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) 含有製剤 電子添文改訂のお知らせ

2024年10月

厚生労働省医薬局医薬安全対策課長通知により、下記製品の電子添文を改訂いたしましたので、ご案内申し上げます。

今後のご使用に際しましては、以下の内容をご参照くださいますようお願い申し上げます。

### 【製品一覧】

製品名	製造販売元／販売元／販売提携
非ステロイド性消炎・鎮痛剤 (COX-2 選択的阻害剤) セレコックス錠 100mg セレコックス錠 200mg	製造販売元：ヴィアトリス製薬合同会社
非ステロイド性消炎・鎮痛剤 (COX-2 選択的阻害剤) セレコキシブ錠 100mg「VTRS」 セレコキシブ錠 200mg「VTRS」	製造販売元：ヴィアトリス・ヘルスケア合同会社 販売元：ヴィアトリス製薬合同会社
解熱鎮痛消炎剤、川崎病用剤 アスピリン「ホエイ」	
疼痛治療剤 (局所注射用) ジカベリン注 2mL ジカベリン注 5mL	製造販売元：シオノケミカル株式会社 販売元：ヴィアトリス製薬合同会社
総合感冒剤 セラピナ配合顆粒	
非ステロイド性消炎・鎮痛剤 メロキシカム錠 5mg「NPI」 メロキシカム錠 10mg「NPI」	製造販売元：日本薬品工業株式会社 販売元：ヴィアトリス製薬合同会社

【改訂内容】

<セレコックス錠 100mg/200mg、セレコキシブ錠 100mg/200mg「VTRS」>

改訂後（下線部分：改訂箇所）	改訂前（波線部分：削除箇所）
<p>9. 特定の背景を有する患者に関する注意            9.1～9.3（省略）            9.5 妊婦            9.5.1（省略）            9.5.2 妊婦（妊娠末期を除く）又は妊娠している可能性のある女性            治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。投与する際には、必要最小限にとどめ、<u>羊水量、胎児の動脈管収縮を疑う所見を妊娠週数や投与日数を考慮して適宜確認するなど慎重に投与すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。シクロオキシゲナーゼ阻害剤（全身作用を期待する製剤）を妊娠中期の妊婦に使用し、胎児の動脈管収縮が起きたとの報告がある。</u>            9.6～9.8（省略）</p>	<p>9. 特定の背景を有する患者に関する注意            9.1～9.3（省略）            9.5 妊婦            9.5.1（省略）            9.5.2 妊婦（妊娠末期を除く）又は妊娠している可能性のある女性            治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。投与する際には、必要最小限にとどめ、<u>適宜羊水量を確認するなど慎重に投与すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。</u>            9.6～9.8（省略）</p>

<アスピリン「ホエイ」>

改訂後（下線部分：改訂箇所）	改訂前（波線部分：削除箇所）
<p>9. 特定の背景を有する患者に関する注意            9.1～9.3（省略）            9.5 妊婦            9.5.1（省略）            9.5.2 妊婦（出産予定日12週以内の妊婦は除く）又は妊娠している可能性のある女性            &lt;効能共通&gt;            （省略）            &lt;川崎病以外の効能又は効果&gt;            (2) 投与する際には、必要最小限にとどめ、<u>羊水量、胎児の動脈管収縮を疑う所見を妊娠週数や投与日数を考慮して適宜確認するなど慎重に投与すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤（全身作用を期待する製剤）を妊娠中期の妊婦に使用し、胎児の動脈管収縮が起きたとの報告がある。</u>            9.6～9.8（省略）</p>	<p>9. 特定の背景を有する患者に関する注意            9.1～9.3（省略）            9.5 妊婦            9.5.1（省略）            9.5.2 妊婦（出産予定日12週以内の妊婦は除く）又は妊娠している可能性のある女性            &lt;効能共通&gt;            （省略）            &lt;川崎病以外の効能又は効果&gt;            (2) 投与する際には、必要最小限にとどめ、<u>適宜羊水量を確認するなど慎重に投与すること。</u>            9.6～9.8（省略）</p>

<ジカペリン注 2mL/5mL>

改訂後（下線部分：改訂箇所）	改訂前（波線部分：削除箇所）
<p>9. 特定の背景を有する患者に関する注意</p> <p>9.1（省略）</p> <p>9.5 妊婦</p> <p>&lt;硬膜外ブロック、浸潤・伝達ブロック（トリガーポイント注射等）&gt;</p> <p>9.5.1 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。投与する際には、必要最小限にとどめ、<u>羊水量、胎児の動脈管収縮を疑う所見を妊娠週数や投与日数を考慮して適宜確認</u>するなど慎重に投与すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。<u>シクロオキシゲナーゼ阻害剤を妊娠中期以降の妊婦に使用し、胎児の動脈管収縮が起きたとの報告があり、また妊娠後期はその発現リスクがより高くなる</u>ことが知られている。アスピリン等のサリチル酸製剤には、動物実験で催奇形作用が報告されているものがある。妊娠末期のラットに投与した実験で、胎児動脈管の軽度収縮が報告されている。</p> <p>&lt;硬膜外ブロック&gt;</p> <p>9.5.2（省略）</p> <p>9.6～9.8（省略）</p>	<p>9. 特定の背景を有する患者に関する注意</p> <p>9.1（省略）</p> <p>9.5 妊婦</p> <p>&lt;硬膜外ブロック、浸潤・伝達ブロック（トリガーポイント注射等）&gt;</p> <p>9.5.1 妊娠又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。投与する際には、必要最小限にとどめ、<u>適宜羊水量を確認</u>するなど慎重に投与すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。アスピリン等のサリチル酸製剤には、動物実験で催奇形作用が報告されているものがある。妊娠末期のラットに投与した実験で、胎児動脈管の軽度収縮が報告されている。</p> <p>&lt;硬膜外ブロック&gt;</p> <p>9.5.2（省略）</p> <p>9.6～9.8（省略）</p>

<セラピナ配合顆粒>

改訂後（下線部分：改訂箇所）	改訂前（波線部分：削除箇所）
<p>9. 特定の背景を有する患者に関する注意</p> <p>9.5 妊婦</p> <p>妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。投与する際には、必要最小限にとどめ、羊水量、<u>胎児の動脈管収縮を疑う所見を妊娠週数や投与日数を考慮して適宜確認するなど慎重に投与すること。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。</li> <li>・<u>シクロオキシゲナーゼ阻害剤を妊娠中期以降の妊婦に使用し、胎児の動脈管収縮が起きたとの報告があり、また妊娠後期はその発現リスクがより高くなることが知られている。</u></li> <li>・サリチル酸製剤（アスピリン等）では動物試験（ラット）で催奇形作用が、ヒトで妊娠後期にアスピリンを投与された患者及びその新生児に出血異常があらわれたとの報告がある。</li> <li>・妊娠後期の女性へのアセトアミノフェンの投与により胎児に動脈管収縮を起こすことがある。</li> <li>・妊娠後期のラットにアセトアミノフェンを投与した試験で、弱い胎児の動脈管収縮が報告されている。</li> </ul> <p>9.6～9.8（省略）</p>	<p>9. 特定の背景を有する患者に関する注意</p> <p>9.5 妊婦</p> <p>妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。投与する際には、必要最小限にとどめ、<u>適宜羊水量を確認するなど慎重に投与すること。</u>シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。<u>また、</u>サリチル酸製剤（アスピリン等）では動物試験（ラット）で催奇形作用が、ヒトで妊娠後期にアスピリンを投与された患者及びその新生児に出血異常があらわれたとの報告がある。妊娠後期の女性へのアセトアミノフェンの投与により胎児に動脈管収縮を起こすことがある。<u>また、</u>妊娠後期のラットにアセトアミノフェンを投与した試験で、弱い胎児の動脈管収縮が報告されている。</p> <p>9.6～9.8（省略）</p>

<メロキシカム錠 5mg/10mg「NPI」>

改訂後（下線部分：改訂箇所）	改訂前
<p>11. 副作用</p> <p>11.1 重大な副作用</p> <p>11.1.1～11.1.9（省略）</p> <p>11.1.10 <u>心筋梗塞、脳血管障害（いずれも頻度不明）</u> <u>心筋梗塞、脳血管障害等の心血管系血栓塞栓性事象があらわれることがある<sup>1)</sup>。</u></p> <p>23. 主要文献</p> <p>1) <u>データベース調査結果の概要（NDB を用いた非ステロイド性抗炎症薬による心血管系イベント発現のリスク評価）</u>：<a href="https://www.pmda.go.jp/files/000270714.pdf">https://www.pmda.go.jp/files/000270714.pdf</a></p> <p>2)～35)（省略）</p>	<p>11. 副作用</p> <p>11.1 重大な副作用</p> <p>11.1.1～11.1.9（省略）</p> <p>23. 主要文献</p> <p>1)～34)（省略）</p>

【改訂内容】

1. 厚生労働省医薬局医薬安全対策課長通知による改訂

＜セレコックス錠 100mg/200mg、セレコキシブ錠 100mg/200mg「VTRS」、アスピリン「ホエイ」、ジカベリン注 2mL/5mL、セラピナ配合顆粒＞

「妊婦」の項

欧州において、妊娠中期の非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)の使用により胎児動脈管早期閉鎖・収縮が起こる可能性がある旨の注意喚起が追加されたことを踏まえ、医薬品医療機器総合機構において使用上の注意を改訂することが適切と判断され、妊娠中期以降の妊婦への使用に関する注意を追記することにいたしました。

＜メロキシカム錠 5mg/10mg「NPI」＞

「重大な副作用」の項

欧米での注意喚起を受け、医薬品医療機器総合機構が実施した製造販売後データベース調査において、非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)の使用により心血管系リスクが上昇することが示唆されたことから、全身曝露される NSAIDs について、「重大な副作用」の項に「心筋梗塞、脳血管障害」を追記することが適切と判断されました。

本件に関するお問い合わせは、下記のコールセンター又はヴィアトリス製薬合同会社の製品担当 MR までお願い申し上げます。

お問い合わせ先：

ヴィアトリス製薬合同会社 メディカルインフォメーション部 フリーダイヤル：0120-419-043  
〒106-0041 東京都港区麻布台一丁目3番1号

改訂内容につきましては、医薬品安全対策情報(DSU)No.330(2024年10月発送)に掲載される予定です。また、最新の電子化された添付文書は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページの「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)及びヴィアトリス製薬合同会社の医療関係者向けウェブサイト「Viatrix e Channel」(<https://www.viatrix-e-channel.com/index.php>)に掲載しております。なお、以下の GS1 バーコードを「添文ナビ」で読み取ることで、本製品の最新の電子化された添付文書等をご覧いただけます。

セレコックス錠  
100mg/200mg



(01)14987901016305

ジカベリン注 2mL/5mL



(01)14987114057706

セレコキシブ錠  
100mg/200mg「VTRS」



(01)14987901129104

セラピナ配合顆粒



(01)14987114056709

アスピリン「ホエイ」



(01)14987901031803

メロキシカム錠  
5mg/10mg「NPI」



(01)14987901093504

## 「使用上の注意」改訂に関するお知らせ —NSAIDsについて—

2024年10月

**JG** 日本ジェネリック株式会社

このたび、弊社取り扱いのNSAIDsにつきまして、「使用上の注意」の一部を改訂いたしました。ご使用に際しましては、改訂後の各項を十分ご参照くださいますようお願い申し上げます。

なお、今後とも弊社製品のご使用に当たって、副作用等の治療上好ましくない事象をご経験の際には、弊社MRまでできるだけ速やかにご連絡くださいますよう、併せてお願い申し上げます。

### 1. 改訂内容

厚生労働省医薬局医薬安全対策課長通知（令和6年10月8日付）に基づき、該当するNSAIDs製剤の使用上の注意を改訂いたしました。

①「妊婦」の項へ、「胎児の動脈管収縮」への注意喚起を追記いたしました。

#### 〔改訂理由〕

PMDAにて、妊娠中期のシクロオキシゲナーゼ阻害作用を有するNSAIDsの曝露に関する観察研究、系統的レビュー等の公表論文、妊娠中期の当該薬剤の曝露による胎児動脈管収縮関連症例を評価し、使用上の注意の改訂要否及び措置範囲を検討した。

また、専門委員の意見も聴取した結果、以下の内容を踏まえ、低用量アスピリン製剤を除くNSAIDsについて、使用上の注意を改訂することが適切と判断された。

- NSAIDsによる妊娠後期の胎児動脈管収縮は知られており、妊娠中期のNSAIDs（低用量アスピリン製剤を除く）の曝露による胎児動脈管収縮について、公表論文が複数報告されている。
- 因果関係が否定できない症例が認められた。
- 局所製剤については、全身作用を期待する製剤と比較し相対的に曝露量が低いことから、胎児動脈管収縮を疑う所見を適宜確認する旨の注意喚起は不要。
- 低用量アスピリン製剤については、妊娠中期の当該薬剤の曝露は胎児動脈管の収縮及び心拡張能に影響がないことを示唆する公表論文が複数報告されていること、当該薬剤と胎児動脈管収縮の因果関係が否定できない症例が認められていないことから、現時点で安全対策措置は不要。

例) セレコキシブ錠 100mg/200mg 「JG」

(改訂箇所: \_\_\_\_\_ 部)

改訂後	改訂前
<p>9.特定の背景を有する患者に関する注意</p> <p>9.5 妊婦</p> <p>9.5.1 妊娠末期の女性 &lt;変更なし&gt;</p> <p>9.5.2 妊婦（妊娠末期を除く）又は妊娠している可能性のある女性</p> <p>治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。投与する際には、必要最小限にとどめ、羊水量、胎児の動脈管収縮を疑う所見を妊娠週数や投与日数を考慮して適宜確認するなど慎重に投与すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。シクロオキシゲナーゼ阻害剤（全身作用を期待する製剤）を妊娠中期の妊婦に使用し、胎児の動脈管収縮が起きたとの報告がある。培養細胞を用いた染色体異常試験において、細胞毒性が認められる濃度で染色体の数的異常（核内倍加細胞の増加）が、生殖発生毒性試験で着床後死亡数や死産の増加、横隔膜ヘルニア、胎児体重減少等が認められている。またラットにおいて本剤が胎児に移行することが報告されている。</p>	<p>9.特定の背景を有する患者に関する注意</p> <p>9.5 妊婦</p> <p>9.5.1 妊娠末期の女性 &lt;省略&gt;</p> <p>9.5.2 妊婦（妊娠末期を除く）又は妊娠している可能性のある女性</p> <p>治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。投与する際には、必要最小限にとどめ、適宜羊水量を確認するなど慎重に投与すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。培養細胞を用いた染色体異常試験において、細胞毒性が認められる濃度で染色体の数的異常（核内倍加細胞の増加）が、生殖発生毒性試験で着床後死亡数や死産の増加、横隔膜ヘルニア、胎児体重減少等が認められている。またラットにおいて本剤が胎児に移行することが報告されている。</p>

※製品により文言等が異なりますため、詳細は各製品の電子添文にてご確認ください。

②「重大な副作用」の項へ、「**心筋梗塞、脳血管障害**」への注意喚起を追記いたしました。

〔改訂理由〕

PMDAにて、匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）を用いたNSAIDsの心筋梗塞及び脳血管障害リスクに関する調査結果概要から、アスピリンを除く※全身作用が期待されるNSAIDsの心筋梗塞及び脳血管障害リスクが示唆されたと判断し、専門委員の意見も聴取した結果、アスピリンを除く※全身作用が期待されるNSAIDsの使用上の注意を改訂することが適切と判断された。

※アスピリンについては本調査において心血管系事象の発現リスクが高い患者に対して予防的に処方されていた可能性が否定できなかったこと等から、本調査結果からアスピリンの心筋梗塞及び脳血管障害リスクについて結論付けることは困難と判断された。

(改訂箇所： \_\_\_\_\_ 部)

改 訂 後	改 訂 前
<b>11.副作用</b> <b>11.1 重大な副作用</b> <b>11.1.X 心筋梗塞、脳血管障害（いずれも頻度不明）</b> 心筋梗塞、脳血管障害等の心血管系血栓塞栓性事象があらわれることがある <sup>X)</sup> 。	<b>11.副作用</b> <b>11.1 重大な副作用</b> ←新設
<b>23.主要文献</b> X)データベース調査結果の概要(NDB を用いた非ステロイド性抗炎症薬による心血管系イベント発現のリスク評価)： <a href="https://www.pmda.go.jp/files/000270714.pdf">https://www.pmda.go.jp/files/000270714.pdf</a>	<b>23.主要文献</b> ←追記

※製品により一部文言等が異なりますため、詳細は各製品の電子添文にてご確認ください。

2. DSU 掲載について

使用上の注意改訂情報は、2024年10月発行予定の「医薬品安全対策情報（DSU）No.330」に掲載されます。

今回の使用上の注意改訂等を反映した電子化された添付文書情報につきましては、以下よりご確認ください。

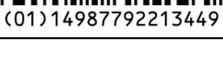
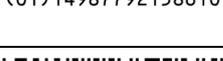
- ・日本ジェネリック株式会社 医療関係者向けサイト (<https://medical.nihon-generic.co.jp/>)
- ・医薬品医療機器総合機構ホームページ(<https://www.pmda.go.jp/>)
- ・「添文ナビ<sup>®</sup>」にて個装箱等に表示のGS1バーコードを読み取る  
 「添文ナビ<sup>®</sup>」のインストールや使用方法は日薬連のホームページをご覧ください。  
 (<http://www.fpmaj.gr.jp/Library/eMC/>)

お問合せ先：日本ジェネリック株式会社  
 安全管理部 TEL：03-6684-2467

J-JG-NSAIDS-002

※改訂箇所の詳細は電子化された添付文書をご確認ください。

①胎児の動脈管収縮、②心筋梗塞、脳血管障害 : 改訂項目に◎

①	②	製品名	一般名	GS1 バーコード	製造販売元
-	◎	インドメタシン坐剤 12.5mg/25mg/50mg 「JG」	インドメタシン	 (01)14987792167711	長生堂製薬株式会社
◎	◎	エトドラク錠 100mg/200mg 「JG」	エトドラク	 (01)14987792157910	大興製薬株式会社
◎	◎	ケトプロフェン坐剤 50mg/75mg 「JG」	ケトプロフェン	 (01)14987792168114	長生堂製薬株式会社
◎	-	ケトプロフェンテープ S20mg/40mg 「テイコク」	ケトプロフェン	 (01)14987792103740	帝國製薬株式会社
◎	-	ケトプロフェンテープ 20mg 「テイコク」	ケトプロフェン	 (01)14987792295285	帝國製薬株式会社
◎	-	ジカベリン注 2mL/5mL	ジブカイン塩酸塩 サリチル酸ナトリウム 臭化カルシウム	 (01)14987792158900	シオノケミカル株式会社
◎	-	ジクロフェナク Na ゲル 1% 「SN」	ジクロフェナクナトリウム	 (01)14987792293410	シオノケミカル株式会社
◎	-	ジクロフェナクナトリウムテープ 15mg/30mg 「JG」	ジクロフェナクナトリウム	 (01)14987792213449	日本ジェネリック株式会社
◎	-	セラピナ配合顆粒	サリチルアミド アセトアミノフェン 無水カフェイン プロメタジンメチレンジサリチル酸塩	 (01)14987792158610	シオノケミカル株式会社
◎	-	セレコキシブ錠 100mg/200mg 「JG」	セレコキシブ	 (01)14987792102286	日本ジェネリック株式会社
◎	-	フェルビナクパップ 70mg/140mg 「東光」	フェルビナク	 (01)14987792295988	東光薬品工業株式会社
◎	-	ロキソプロフェン Na ゲル 1% 「JG」	ロキソプロフェンナトリウム水和物	 (01)14987792217553	日本ジェネリック株式会社
◎	-	ロキソプロフェン Na テープ 50mg/100mg 「JG」	ロキソプロフェンナトリウム水和物	 (01)14987792217348	日本ジェネリック株式会社
◎	-	ロキソプロフェン Na パップ 100mg 「JG」	ロキソプロフェンナトリウム水和物	 (01)14987792217645	日本ジェネリック株式会社
◎	◎	ロキソプロフェンナトリウム錠 60mg 「CH」	ロキソプロフェンナトリウム水和物	 (01)14987792166011	長生堂製薬株式会社